

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200135	事業の開始年月日	2012年5月19日	
		指定年月日	2012年5月17日	
法人名	テクノケアサービス株式会社			
事業所名	グループホームきずな			
所在地	(〒 987-0365 ) 宮城県登米市豊里町新町10-4			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9 名	
		ユニット数	1	
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナの影響により団体での外出機会が減ってしまいましたが、利用者様が余暇を楽しんでいただけるように、線つなぎや塗り絵、漢字書き取り、読書、新聞読みやTV視聴など個別にレクリエーションを提供したり、室内での体操や軽い運動を毎日しています。  
また、リビングではユーチューブでの歌番組や体操、BS放送の時代劇などを皆で観ながら利用者様に楽しい日常生活を過ごせるように努めております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年3月3日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の理念】

基本理念：○安心と一人ひとりが尊厳のある生活を送ります  
○笑いと楽しみのある施設を目指します  
○地域の皆様との交流や自然とのふれあいを大切にします  
介護理念：利用者様とスタッフが心から信頼し心から笑えるように

## 【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「テクノケアサービス株式会社」は、福祉用具貸与・販売事業と、グループホーム2事業所を運営している。「グループホームきずな」は開所して10年、気仙沼線陸前豊里駅からほど近い住宅街にあり、平屋建ての1ユニットである。家庭的な雰囲気の中で利用者はゆったりと過ごしている。

## 【事業所の優れている点・工夫点】

コロナ禍で地域との交流が少なくなっている中でも、管理者が町内会の役員を担うなど地域との関りを大切にしている。リビングではYouTubeやBS放送を活用し、歌番組や時代劇を日々の生活の中のレクリエーションに入れ、みんなで楽しんでいる。また、ラジオ体操やズンドコ体操などの軽運動で便秘解消や日常生活動作の維持に役立っている。研修時や職員会議で職員から意見や要望を聞き、ケアに生かしている。提案された自助食器を導入した結果、利用者自身で食事が摂れる機会が増えた。虐待防止の研修では、職員各自がケアを振り返り、過去の事例を挙げスピーチロックにならない言葉がけを見つけ出すなどの研修をしている。2ヶ月毎に作成している「きずな通信」には、利用者が参加した火災訓練の活動風景、散歩などの日常生活の様子、季節ごとに行われる行事で楽しんでいる利用者の笑顔の写真が沢山掲載されている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームきずな
------	------------

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

## 自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームきずな）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践し、共有するように努めている。	基本理念、介護理念と2つの理念がある。理念は玄関や台所など常に見えるところに掲示し、年1回見直している。職員は、足湯時など利用者とゆっくり関わる際に家族の話の話を聞いたり、食べたい物の希望を聞いている。職員は、利用者とのコミュニケーションの中で笑顔に繋がった時など、理念が活かされていると実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃や、花植えには職員1名が参加するも、新型コロナの影響により事業所への入室制限をしているため交流は停滞している。	町内会に加入し、管理者が役員を担うなど、コロナ禍でも地域との交流を積極的に図っている。職員が地域活動の花植えに4回、清掃に2回、参加している。近隣住民とは、散歩の際に挨拶を交わすなどの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、理解を得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響により、運営推進会議は資料のみ関係者へ提出している。提出資料に対する意見は聞かれない。	コロナ禍で対面での運営推進会議は開催できていない。例年は、利用者家族代表、民生委員、登米市職員、地域包括職員、町内会長2人、職員で構成し、利用者の状況、行事活動、職員研修、ヒヤリハット事例や事故報告、職員の退職・新規採用状況などを書面で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	登米市 長寿介護課の職員、地域包括支援センター等との電話連絡は行っている。	登米市には外部評価結果や目標達成計画を届けており、新型コロナウイルス感染法上の分類変更による面会など、随時運営について相談している。地域包括職員とは、運営推進会議の資料を届け、入居希望者の相談など連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束廃止委員を設置し三ヶ月に一回身体拘束について研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、年4回開催している。委員会ではグレーゾーンやスピーチロックなどについて話し合い、対応方法などの結果について申し送り時に職員間で情報共有している。帰宅願望が強い入居して間もない利用者への声掛け方法を話し合い、全職員が同じように支援することで、事業所に馴染むことができた。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待の無いケアに努めている。	研修終了後に各職員が感想を書き、自身のケアを振り返り虐待防止に努めている。仕事に慣れた時期や、利用者との馴れあいになり無意識に不適切な言葉遣いが使われた事例など、自身のケアを振り返り、職員間で共有し改善している。職員の精神的負担を減らすためにメンタルヘルス係を設け、職員からの要望に対応しているほか、年1回社長面談も実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修し理解を深めているが、関係者と話し合う機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様より要望あれば、反映できる案件は反映している。ご家族様面会時や行事参加時、要望や意見を伺い反映できる案件は反映させている。玄関に意見箱を設置し、直接話しにくい案件は登米市へ連絡して頂くように説明している。	家族の要望は面会時などに聞いている。利用者からの要望は、日常生活の関りの中で聞き取り、実現できた時には満足した笑顔の様子が見られる。「刺身が食べたい」「自販機でジュースを購入したい」「平筒沼に行きたい」など、状態や状況を確認し応えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて要望あれば出来る限り対応している。	月1回のスタッフ会議で意見や提案を聞き、業務改善に生かしている。自助食器の導入について提案があり、介助なしでも自分で食べられる機会が増えた。また、消耗品切れが起きないように最後に使用する場合は申し送りノートに書くなど、会議で出された提案を具体化して運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思うが、職員として不満が無いわけではない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はかなり少ないが、内部研修は行っており職員を育てる取り組みは行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナの影響により、ほとんど交流機会がない。	登米市介護事業所協議会に参加し、情報交換を行っていたがコロナ禍で交流の機会が減っている。同法人の他事業所とは年2回の全体会や管理者間で設備修理などについて、情報交換を通し交流を図っている。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	想いを共有した声掛け等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の手紙で近況報告し現状を報告している。また、家族には医療機関受診時に立ち合いたいなど協力を得て支えてもらっている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により、ほとんどできていない。但し、1名の利用者の友達は時々電話で会話をされている。	新型コロナウイルス感染症予防対策に努め、外出・面会は窓越しで15分にするなど制限を設け行っている。事業所から家が近所にある人は、散歩の途中に自宅へ寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題・行事等で係るように支援しているが、各々個性があり合う合わないの関係が観られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、入院中の退去者の相談員より電話連絡があり、その家族とのやり取りをした経緯がある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位、または心身状態把握に努めている。	日常の会話や様子から意向を把握している。意思表示の難しい人は家族から聞き取っている。料理が好きな人は食事作りに参加したり、自分のペースで行えることが継続できるよう、大切にして取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	配慮し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人本位、または心身状態把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの方向性についてケア会議内で話し合っている。家族様にも相談し意見を伺っている。	管理者、ケアマネジャー、職員で月1回、ケア会議を開催し、長期6ヶ月、短期3ヶ月で介護計画を見直している。本人・家族から要望を聞き、また、職員の申し送り、業務日誌などからも意向を把握し反映している。家族から「他の人と一緒に掃除や洗濯ができるように」との要望が出され、介護計画に反映させケアに活かした例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有し活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が出来るように図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、認知症カフェへの参加を行い、レクリエーションやお茶会を楽しんでいたが、新型コロナウイルスの影響により、今は実施できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を行っている。協力医療機関以外の受診時は同行し症状・身体状況の把握に努めている。	かかりつけ医が協力医療機関の場合、月1回～2ヶ月に1回、職員が同行して受診し、受診結果を家族に報告している。協力医療機関以外の受診は、基本家族が付き添っているが状況によって職員も同行している。訪問看護ステーションと契約しており、週1回訪問があり健康管理をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日訪看訪問されるので、気づいたことは日誌に記載し、訪看に伝える。内容は支援記録に記載し情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は症状の確認に伺い、情報を得るようにしている。入退院時には主治医との面談実施している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期・重度化の際、方向性や希望を入居時に確認している。訪看との連携に努めている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針同意書」「終末期ケアにおける確認事項」を説明し、同意を得ている。介護度が上がり要介護3の介護認定を受けた時に、重度化した場合に他の施設に移るなど、今後の対応について家族と話し合っている。事業所では看取り経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修での救急救命研修を行っている。また、防災研修も実施している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	豊里公民館への防災避難訓練を実施している。	火災・風水害・地震・感染症対応マニュアルがある。年2回、利用者も参加して火災訓練を5月に、夜間想定を11月に実施している。防災訓練を12月に実施し、「緊急時持出しファイル」の内容を利用者の状態や介護度に合わせ見直すことや、近隣に住む職員への施設招集方法、ルールを再確認し改善に繋げた。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限りプライバシーの尊重に努めているも、耳の遠い方も居るので、配慮に欠けることもある。	居室へ入室時には声がけをする、入浴時にはお風呂のカーテンを閉めるなど、プライバシーを尊重するケアに努めている。年1回、研修を行っており、職員からの提案でトイレのドアを間違っ開けないよう「使用中」「空いています」の各札を付けることにした。耳の遠い人には大声での声がけから、さりげなく誘導できるように筆談に変更した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状の重い方も居るので、相手の思いを汲み取る努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時々、職員優先になることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	眉毛を整えたり、身だしなみに気を使っている方も居る。また、職員が髪を結ったりしてあげることがある。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルで食事している。準備は難しいが、片付けは利用者を手伝っていただくこともある。	コロナ禍で外出の機会を減らし、少しでもリスクを回避できるよう努めており、食材調達を業者に依頼している。業者の献立に記入してある栄養価を確認し、栄養バランスに気を付けている。1ヶ月に数回、利用者のリクエストに応えられるよう、「自由食の日」を設け楽しんでいる。利用者は調理や片づけに参加し、自宅で行っていた習慣が継続できるよう取組んでいる。コロナ禍で職員は利用者と同じテーブルでは食べていないが同じ料理を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼に応じて食事形態を変え、主食量も各個人によって調整している。主治医に主食量の相談をすることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後、就寝前に口腔ケア実施している。義歯は入歯洗浄剤で消毒し、口腔状態に応じ口腔スポンジまたは口腔ケアシートを使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの自立した排泄を支援しているが、高齢化とADL低下により難しくなってきた利用者も居る。	排泄パターン表を活用した声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援をしている。便秘改善のため乳製品を摂り入れたり、室内歩行やラジオ体操・ズンドコ体操などの軽運動も取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操で体を動かしたり、おやつに乳製品提供など便秘予防に努めている。場合によっては主治医より処方された服薬により便秘解消に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めているが、声掛けし気が乗らない時は変更している。入浴したいと希望あれば行っている。	入浴回数は週2回を基本にしているが、希望があれば毎日入浴ができる。湯は毎回交換し、足浴の際に好きな入浴剤で楽しんでいる。同性介助は、希望があれば対応している。入浴を嫌がる場合は、無理強いせずに日時を変更したり、「息子さんに頼まれたから入ってね」と促すなど、工夫しながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	下肢の浮腫み、心臓疾患等の現病に応じ声掛け行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧ファイルにて服用している処方箋がいつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室やリビングの掃除、食器拭き、洗濯物畳みやリネ交換時手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、日常的な外出支援は実施していないが、出来る範囲でドライブや散歩は実践している。	コロナ禍で認知症カフェなどが無くなり、外出の機会が減っている。外出希望者は、週1～2回、平筒沼や榊取り、職員が薬を取りに行く際などに近隣をドライブしている。気候や天気の良い日などには、車いすの人も一緒に散歩に出かけ外気浴を楽しみながら気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者も居る。所持しなくても、必要なものを即時購入できる状況にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や親族様から手紙を送られる利用者様もいる。また、近所の方からの電話をもらう利用者様もいて、時々は返信している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙、花など飾り季節を感じて頂いている。	リビングは天井が高く、明るい空間になっている。壁には職員が準備した季節の装飾や時計・カレンダーが掛けられている。温・湿度は3時間ごとに職員がチェックし、換気は毎食後15分ずつ行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えで気の合う方同士を近くにするなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真など飾って頂いている。壁飾り等で本人の好みになるように配慮している。	居室にはチェスト、ベッド、丸テーブル・椅子、防火カーテン、エアコンが設置されている。利用者は仏壇、テレビ、写真、賞状など、馴染みの物を持ち込んでいる。ドアには利用者がわかりやすいよう、お花の絵や表札、技能実習生がわかるよう英語の表札も掲げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線の確保、段差の解消、各部屋、トイレ等分かり易いように行っている。		